



みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第101号

発行日
令和7年9月1日

◇ 目 次 ◇

P-2 : 自主観察会(2)公募観察会下見

: 公募観察会①中止

P-3 : 樹木名板維持管理作業

P-5 : 環境省研修会(歴史)

P-6 : 厳島神社前海滨清掃作業

P-8 : 投稿

①広島県内外の厳島管絃祭に

かかわる祭礼行事について

②俳句

P-9 : 編集後記

「 宮島の野生バラ ヤマイバラ 」



満開のヤマイバラ 2024年5月17日撮影

宮島に自生するバラの中でヤマイバラは直径約 5cm の花を咲かせ最も観賞価値が高いバラです。宮島では普通に見ることができますが、全国的に見ると珍しく絶滅危惧植物とされている県もあります。平成 7(2025)年 5 月に世界バラ会議福山大会が開催されました。このヤマイバラは世界に注目される日本の野生バラのひとつとして、世界の愛好家に案内するツアーが開催されました。しかし、残念ながら花が非常に少なく見てもらうことができませんでした。そのため海外の人にとっては幻のバラとなりました。

(文・写真 山本昌生)

みせん 100 号へ祝辞

沼津管理官事務所 山崎様

平成30年4月から令和3年6月まで広島事務所にいました。

みせん100号、おめでとうございます！これまで25年超続いているというその継続こそがすごいことで、大きな節目は本当に皆さんの努力の賜物だと思います。

年表を拝見しますと、活動当初は宮島来島者数の低迷時期だったようですが、私が着任した時点では毎年過去最高を更新し続ける状況であり、また活動自粛を余儀なくさせる世界的なコロナ禍がありと、まさに歴史あり。情勢の変化を受けながらの活動継続なのだと改めて感じました。

こちら富士箱根伊豆国立公園の富士山地域では、7月に迫った富士山開山へ向けて、今年も準備や対応に追われております。多くの人が訪れる知名度の高いエリアという点では共通ですね。皆様方のアツい情熱による多様な活動が今後とも宮島の歴史とともに継続していきますこと、祈念しております。

浦富自然保護官事務所 内山様

おめでとうございます。25年の歩みを読みPV活動の歴史を感じています。退会された方も含めると250名あまり、ほんとうに多くの人に関わっていただいたことすごいことだと思います。

広島を離れましたがこうして「みせん」でみなさんの様子を見ることができうれしいです。これからも健康に留意して、楽しい活動を続けていってください。

どこに行っても応援しています。

近況報告で浦富の海をおくります。いまは海が穏やかで本当にきれいなのでおすそわけです。こちらでもハンゲショウを見かけて今年の宮島のハンゲショウはどうか～とか、ふとした瞬間に広島のこと思い出したりしています。



浦富の海

自主観察会(2) 公募観察会下見

日時：5月11日（日）9:00～12:00

天気：曇りのち雨

場所：大元公園～多々良潟

行事推進員：伊藤 豊原 中丸

参加者：青木 伊藤 岩崎 小川 折出 黒川

河野 末原 中丸 中道 舛田

村上(慎) 森 山本(昌) 以上14名

5月17日に実施する公募観察会の下見を行いました。今回は福山市で開催される世界バラ会議にちなんで全国的には珍しいヤマイバラを中心とした春の植物観察です。ヤマイバラについては、表紙に紹介していますが、下見時には少し時期が早くて蕾しか見ることができませんでした。ヤマボウシは、開花はじめてでしたが大きな花を見ることができました。ほかにサカキカズラ、ハウロクイチゴ、テイカカズラ、ナンゴクウラシマソウなどの花を見ることができました。

当日は暑くも寒くもなく、歩くには快適な一日でした。用意したテキストをもとに約20種類の植物を解説しました。1週間後には、公募観察会の参加者に満開のヤマイバラを見ていただく予定でした。しかし、5月17日の公募観察会当日は大雨の予報のため、中止となりました。また、前日に末原会長がバラの様子を確認したところ、ほとんど咲いていなかったそうです。年により開花のバラツキがあるそうで、去年は当たり年でしたが今年はずれ年だったようで、できれば

来年以降に満開の状態を観察できればと思います。

(文：山本(昌) 写真：河野・山本(昌))



モミの解説風景



ヤマボウシの花



ヤマイバラとヤマボウシの場所で記念撮影

樹木名板維持管理作業

日時：5月31日(土) 9:00～12:00

天候：快晴

場所：ウグイス道～紅葉谷公園、大元公園
～紅葉谷公園

行事推進員：上杉(裕) 上杉(幸) 折出

参加者：青木 岩崎 上杉(裕) 上杉(幸) 大西

小川 折出 熊埜御堂 河野 末原 兎谷

中丸 長村 穂井田 舩田 村上(慎)

元広 森 山本(昌) 吉賀

以上 20 名

当日は快晴、日向では少し汗ばむほどでした。作業は新緑生い茂る場所、木陰がありがたかったです。樹木名と番号を記載した樹木名板取付場所配置図に基づき、ウグイス道からの東側ルートと大元公園からの西側ルートに分かれて作業し、紅葉谷の山村茶屋前で合流しました。

作業は主に名板の点検と清掃で、見えにくくなっているもの、樹木の成長で取り付け用の針金がきつくなっているものは適宜付け直しを行いました。また、繁茂状況によって名板を追加したり、残念ながら生育が確認でき

なくなっていた所の名板を撤去したり、と言
った処置も実施しました。

(文：上杉(裕) 写真：河野)



西側班出発



維持管理作業



作業開始(東側班)



維持管理作業(アラカシ)



維持管理作業(スノキ)



ミズバイのラベル清掃



集合写真(山村茶屋前)

環境省研修会（歴史）

日時：6月14日（土）9:00～12:00

天気：雨（あいにくの梅雨の雨でしたが、
室内での研修会で助かりました。）

場所：宮島歴史民俗資料館

行事推進員：黒川 松尾

参加者：青木 岩崎 上杉(裕) 上杉(幸) 大西

大林 折出 恩田 黒川 河野 末原

千日 中丸 中道 穂井田 舩田 松田

村上(慎) 森 山本(昌)

以上 20 名

（環境省）山脇自然保護官 大高下 AR

自然と環境の保護を目的とする私たちの会にとって、以前の宮島の保護の状況を知ること、現在と将来の活動を考えるうえで大いに参考になることだと考えます。ふるさと学習推進員の山下智美さんの宮島の歴史と庶民の暮らしについての丁寧で上手な説明はありがたいことでした。特に印象に残ったことは、明治以前には宮島では農業が禁じられていたこと、また資料館の基であった江上家についての資料が乏しいことが調査を進めていく上で課題になっているようです。宮島の歴史資料を対岸に運ぶ際に船が沈没したこともあったようです。国宝の平家納経がある宮島は歴史的な資料で現存しているものが乏しいことは意外なことでした。

以下に研修会の概要を紹介します。

展示館 A：石畳のある土蔵をそのまま展示館にしてあります。弥山霊火堂から運ばれた消えぬ火の大釜がある。

展示館 B：管絃祭の御座船と漕選船模型を前にして説明していただいた。太陰暦には一定の割合で「閏月」というのが入ります。19年で7回。旧暦6月17日に管絃祭があり、その一ヶ月後にもう一度、居管絃祭が行われる。1987年の19年後、今年8月10日に居管絃祭が行われました。

展示館 C：農業や機織りが禁止されていた島でそれに代わる木工での宮島杓子が展示。

展示館 D：1階は厳島神社と平清盛、2階は江戸時代以降の歴史資料土器類を展示。松材

と沈め石を用いた9代目の大鳥居の説明。展示館を抜けると、町屋と言われる民家の代表例があり、醤油醸造や質屋を営んでいた豪商旧江上家主屋に至ります。途中池の有る庭園は1973年に改修された見ごたえのあるものです。展示資料は撮影禁止のため写真はありません。

（ 文：黒川 写真：河野 ）



宮島歴史民俗資料館



山下ふるさと学習推進員挨拶



館内庭園



集合写真

厳島神社前海浜清掃作業

日時：7月9日（水）13:00～15:00

天気：晴れ

場所：厳島神社前海浜

行事推進員：青木 大林 吉賀

参加者：青木 岩崎 大西 大林 小川 恩田
河野 末原 豊原 中丸 畑野 穂井田
森 吉賀 以上 14 名

（環境省）大高下 AR

猛暑の中、干潮時に合わせて厳島神社前海浜清掃を実施しました。当日は管絃祭の2日前で、御座船などの準備作業も進んでおり、管絃祭準備の一環として、神社の職員の方々と協働で清掃を行いました。

13時に宮島栈橋前に集合し、神社入り口に移動後、神社の方から清掃に関わる説明や注意事項の話を伺いました。清掃道具を受け取り、いよいよ浜に降りて清掃開始です。

大鳥居の少し沖まで潮が引いています。今年もアオサはあまりありませんでしたが、社殿横から大鳥居下までプラスチックゴミやアオサを集めるなどの清掃を行いました。熱中症の恐れもあり休憩をこまめにとり、神社の方から頂いた清涼飲料水などで水分補給をし

ながら、14時半まで作業を行い無事に終了しました。

その後、厳島神社のご厚意で本殿前においてお祓いを受け、会員を代表して青木会員が玉串奉奠を行いました。また、神社の方から、今年38年ぶりに行われる居管絃祭について説明を受けた後、質問にも丁寧に答えていただき貴重な時間となりました。

15時前に御座船をバックに集合写真を撮り解散しました。皆さんお疲れ様でした。

（ 文：吉賀 写真：河野 ）



神社職員挨拶



清掃作業



清掃作業



清掃作業



清掃作業



清掃作業



居管絃祭の説明を受ける



清掃作業



集合写真

*** 投稿 ***

① 広島県内外の厳島管絃祭にかかわる祭礼行事について

森 弘

今年は旧暦の閏月が38年ぶりに6月に当たって6月2度あり、旧暦6月17日に行われる管絃祭も7月11日と8月10日（8月は神社の中だけで行う居管絃祭）の二回行われました。管絃祭はかつて広島県の最大の祭りと言われ、多くの地域から人々が宮島に集う日だった。また、各地に鎮座する厳島神社をはじめ、縁のある場所で祭礼や行事が行われてきました。その話を聞く機会があり、ここに短く紹介させていただきます。旧広島市内の管絃祭にかかわる祭礼行事については、5年前の会報「みせん 80号」で紹介させて頂きましたので、それ以外の地域の紹介をいたします。

広島県

- ① 江田島市田江田島町「おかげんさん」
多くの人々が厳島神社に参拝するが、残った人は仕事を休む。夜になると子供たちが麦わらで小さな舟を作り、燈をともして海に流す。
- ② 呉市安浦町「柏島の管絃祭」
引き船を先頭に御座船三艘が並列に並び、中央に神輿を乗せ、供船などが何十と続く。1時間足らずで島を一周して戻る。
- ③ 大島上島町「木江十七夜祭」
- ④ 尾道市瀬戸田町「高根厳島神社の管絃祭」
- ⑤ 尾道市向島町「岩子島厳島神社の管絃祭」
- ⑥ 尾道市因島重井町「重井厳島神社の明神祭」

⑦ 北広島町「八重管絃祭」

屋形を積んだ荷車の周囲に竹の杵を組んで紅白の幕を張り、提灯と造花で飾り付けた船形の山車が何台も練り歩く。また、船の後ろには引き綱を持った子供たちが「宮島さん」などの歌を唄う。

⑧ 安芸高田市高宮町「亀尾山神社の管絃祭」

新しいマダケで舟形の神輿「御座船」を作り、昔は若者が担いでいたが、今は台車で運んでいる。高提灯を先頭に御座船が続き、太鼓・笛・唄い手・囃し方が後に続く。

⑨ 安芸高田市八千代町「佐々井厳島神社の管絃祭」

⑩ 安芸高田市向原町「新宮神社の十七夜祭」

⑪ 安芸高田市吉田町「吉田の管絃祭」

⑫ 加計町「管絃祭」

大正から昭和にかけて河に管絃船を浮かべていたが、水力発電所ができてできなくなり、船の形をした車を陸上で曳くことになった。

⑬ 五日市町「管絃祭」

「おかげんさんの迎え火」と称して子供たちが海岸や川土手などに並び、麦わらで作った松明を振り「おかげんさん おかげんさん」と叫んでいた。

⑭ 沖美町「管絃祭」

宮島に参拝もしたが、「おかげん舟」を作り、火を放って沖に出した。

⑮ 三次市「管絃祭」

愛媛県

⑯ 越智郡波方町「かーげん祭」

麦わらを結わえたものを家族の数だけ作り、海岸で火をつける。

⑰ 今治市桜井「宮島さんの飾り船」

その年に男児の生まれた家が1～1.5mの麦わらの飾り舟を作り、灯をともして社前の海に流した。

⑱ 東予市壬生川「おかげん祭」

三隻の漁船を横に連結し、紅白の幕や提灯で飾った御座船に厳島三神乗せて、内港を一巡して帰る。

⑲ 越智郡三島町「十七夜のまつり」

⑳ 越智郡伯方町「宮島さん」

② 俳句 大林 實

万緑や足場に秘する五重塔

万緑や原生林抱く神の島

吹抜けの千畳閣の涼しけれ

清掃の干潟に神の鹿の子かな

管絃祭浄む境内大千潟

◇ 編集後記 ◇

101号も皆様のご協力を頂いて配信することができました。感謝です。

今年は自称「雑草写真家」。スマホで花をマクロ撮影。現在200～250種類程度。そよぐ花はピンボケ多し。新たな花が撮れると嬉しくなります。さらに雑草の料理と染色に興味を持っています。皆さん、身近にある雑草で楽しめますよ～。 (麻生)

瀬戸内海国立公園

宮島地区パークボランティアの会

事務局：環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所
(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀 6番30号

広島合同庁舎 3号館 1階

TEL082-223-7450、FAX082-211-0455